

ウルドゥー語のブックリストに係る報告書

2013 年 1 月

村上 明香

1. 国際子ども図書館所蔵資料の評価、所見

① 児童文学

まず評価すべき点は、1894 年の創業以来、ウルドゥー語児童書の出版を牽引してきた出版社、Ferozsons の書籍が多く含まれているところです。次に、所蔵されている書籍の内容ですが、外国語からの翻訳や著者不明の作品が多く見受けられます。内容の充実化を図るためにも、児童文学研究書で取り上げられているような作品や、児童文学賞受賞作家作品を増やすことを推奨します。また、2000 年以降の作品が少ないことが問題として挙げられます。近年、インド国立文学アカデミーやその他の機関によって児童文学賞が新設されたり、インド・パキスタン両国で児童文学フェスティバルが開催されるなど、児童文学に対する積極的な取り組みがなされています。近年刊行の作品を補充することが望ましいでしょう。

② 民話など

民話資料が不足しているようです。代表的なものとしては、北インドやパキスタンで長年親しまれている「アクバルとビールバル」、「シャイフ・チッリー」、「ムッラー・ドーピヤーザ」といった頓知譚や滑稽譚が挙げられます。これらは、ぜひ蔵書に加えていただきたいものの 1 つです。また、インド・パキスタン各地・各言語の民話を採集、ウルドゥー語訳した本が出版されています。その他、古くから親しまれてきたものの中に、子守唄や Paheli (なぞなぞ) があります。今回は、これらもブックリストの対象としました。

③ ノンフィクション (知育もの・サイエンス系・伝記・歴史・地理など)

サイエンス系、イスラーム関連の本は比較的、良く揃っていると思います。ウルドゥー語は、インド亜大陸の広域な地域に居住するすべての宗教集団の成員によって話されていますが、過去約 300 年、その主たる文学言語として使用してきたイスラーム教徒と密接な関係を維持してきました。そのため、イスラーム関連の児童書は重要であると言えます。強化すべき点としては、インドやパキスタンに関する歴史書、偉人・歴史上の人物の伝記、地理書など、インドやパキスタンの子供たちが自らの歴史や社会を知るために使用する類の資料があれば、なお良いと思います。

④ 児童文学の研究書

残念ながら、児童文学の研究書が蔵書されていないようです。ウルドゥー語における児童文学研究は決して盛んであるとは言えませんが、数冊の児童文学史研究書や作家研究書が刊行されています。これらの資料は、ウルドゥー語の児童文学を知る上で貴重かつ希少な資料であり、児童書に特化した国立図書館としての役割を考えると、ぜひとも蔵書に加えていただきたいと思います。

以上、4点を考慮し、ブックリストに反映させることとしました。

2. ウルドゥー語の主要な児童書賞の情報

インド・パキスタンにおける主な児童書賞には以下のようなものがあります。

まず、インド国立文学アカデミー(Sahitya Akademi)が2010年に創設した「児童文学賞 (Baal Sahitya Puraskar)」です。インド国立文学アカデミーは、英語を含むインド諸言語による文学の研究・発展支援のために設けられた政府の独立機関です。児童文学賞としての歴史は浅いものの、国立の権威ある機関がこのような賞を設けたことで、インドにおける児童文学の今後の発展に期待したいと思います。この賞が創設されてからこれまで、毎年一名のウルドゥー語作家がこの賞を受賞しています。なお、受賞者については以下のURLより閲覧することができます。

<http://sahitya-akademi.gov.in/sahitya-akademi/pdf/bal-sahitya-2011.pdf>

<http://sahitya-akademi.gov.in/sahitya-akademi/pdf/bal-sahitya-2012.pdf>

(2010年の受賞者についてはpdfなし)

その他、ハリヤーナー州政府が2008年に新設したウルドゥー語文学賞の中に名作児童文学賞 (The Award for Outstanding Child Literature) が含まれているほか、各州の政府系組織、ウルドゥー協会(Urdu Academy)が優れた児童文学に対して児童文学賞を授与しています。

パキスタンの児童書賞としては政府資金で運営されている財団、National Book Foundationの賞が挙げられます。この財団は低価格で入手できる絵入りの児童書を手掛けている他、地域言語やウルドゥー語への翻訳も行っています。この財団の児童書賞には、児童文学への貢献が認められた作家に対して与えられる「児童文学振興(Promotion of Children Literature)」賞の他、「カイデ・アーザム(=最も偉大な指導者)¹、アッラーマ・イクバル²そしてパキスタンについて書かれた最優秀児童書に対する大統領賞 (Presidential Award on the Best Written Children Books on Quaid-e-Azam, Allama Iqbal and Pakistan)」があります。

3. 児童書および児童関連資料の出版・入手状況について

ウルドゥー語の児童書の出版は、あまり盛んとはいえません。インドでは、ヒンディー語や英語の影響が増し、ウルドゥー語を読み書きできる若年層人口が減少する傾向に

¹ムハンマド・アリー・ジンナー (Muhammad Ali Jinnah, 1876-1948)の尊称。パキスタンの初代総督。パキスタン建国の父として敬愛されている。

²ムハンマド・イクバル(Muhammad Iqbal, 1877-1938)。パキスタンの建国に尽力した政治家、思想家、文学者。現代ウルドゥー語文学界最高峰の詩人と称されている。パキスタンの国民的詩人であり、政治、哲学、歴史についても多くのコメントを残している。一般に「アッラーマ・イクバル」と呼ばれる。アッラーマとは、大学者の意。

あります。さらに、インドにおけるウルドゥー語書籍の出版総数は 2007 年の時点で全体のわずか 2.6%しかないそうです³。

一方、パキスタンの書店にも英語の児童書が目立ちます。その理由として、紙やイラストの質、ウルドゥー語の本よりも英語の本の方が扱っているジャンルが豊富であること、などが挙げられています。しかし近年、児童書への関心は上昇傾向にあるようです。現地の新聞や雑誌などを読んでも、ウルドゥー語やその他のパキスタン諸言語による児童文学の振興や、読書環境の向上を訴える記事を目にします。その他の取り組みとしては、2011 年から開催されているパキスタン初の児童文学フェスティバル、**Children's Literature Festival**(<http://childrensliteraturefestival.com/index.htm>)が挙げられます。同様のフェスティバルは、インドでも開催されています。2008 年、インド初の児童文学フェスティバルとして開催された **Bookaroo** (<http://bookaroo.in/>) です。このような動きが、インド・パキスタン両国の児童書出版の向上につながってくれることを願ってやみません。

その他、読書環境の向上を目指す取り組みの 1 つとして、パキスタンの非政府組織 **Alif Laila Book Bus Society** (以下、**ALBBS**)の活動を取り上げたいと思います。**ALBBS** は、1978 年にパキスタン北部パンジャーブ州の州都、ラホールに創設された NGO 団体です。彼らは、中古のバスを改造して児童専用図書館にするなど、子供たちの教育と識字率の向上を目的とした活動を行っています。1998 年には移動図書館 **Dastango**(ウルドゥー語で語り部の意)を新設し、ラホール近郊の町や村を廻って地域の子供たちに本を提供しています。これはインド・パキスタンに共通して言えることですが、子供たちが活用できる図書館が少ないように思います。このブック・バスのような取り組みが強化されれば、子供たちが本に触れる機会も増え、児童書の出版自体も活発になるのではないのでしょうか。

最後に、日本語作品の翻訳書出版について触れておきたいと思います。今回の調査で、日本語の昔話や童謡のアンソロジー、その他の個人作品がウルドゥー語に翻訳されていることが明らかになりました。特に、椋鳩十の作品が複数翻訳されていました。椋鳩十の作品はいずれもパキスタン、ラホールの **Sang-e-Meel Publications** より出版されています。

4. ウルドゥー語の児童書の特徴

ウルドゥー児童文学の特徴は、韻文が盛んであることです。児童文学の研究書を見ても、散文作品とほぼ同じページ数が当てられています。テーマとしては、愛国を詠ったものや倫理・道徳的なものが多く見受けられます。これは散文作品も同様です。

ウルドゥー語はインド、パキスタンの両国で話され、書籍が出版されています。しかし、パキスタン人作家の作品がインドで、インド人作家の作品がパキスタンで出版されることもあり、また書籍自体が輸出入されることもあるため、主要な作品は両国で入手できることが多くなっているようです。

³ *60 years of book publishing in India*, New Delhi : Federation of Indian Publishers, 2007.

5. 出版社

今回の調査を進める中で、いくつか特徴的な出版社がありました。参考までにご紹介します。

インド

- ・ **National Book Trust**…1957年に創設された政府の独立機関。出版活動の振興と読書習慣の普及のために組織された。主なインドの諸言語での出版活動を行っているほか、「国立児童文学センター」の運営も行っている。
- ・ **Malik Book Depo (Delhi)**…国立文学アカデミーの児童文学賞を受賞した **Adil Aseer Dehvi** の作品や、ウルドゥー語の著名な作品を子供向けにした本を出版している。
- ・ **The National Council for Promotion of Urdu Language**…1996年に創設された人材資源開発省管轄の政府機関。ウルドゥー語の普及、発展の促進を目的とする。児童書も出版しており、そのジャンルはインドの民話や偉人伝、物語、詩など多岐にわたっている。
- ・ **Maktaba Payam-e Taleem (New Delhi)** …今回の調査で、近年多数の良書を出していることが分かった。ウルドゥー語の児童文学研究書に登場する作品の再版も多数見られた。

パキスタン

- ・ **Ferozsons** …1894年、ラホールで創業して以来、ウルドゥー語の児童書を多数出版してきた老舗。創設者は児童書をただの商売道具としてではなく、大衆の識字率向上のために出版するなど、児童書に大きな影響を与えた。児童書の出版社としては最も有名。
- ・ **Sang-e-Meel Publications**…1962年から続くパキスタン国内最大の出版社。今回の調査で、椋鳩十の作品のウルドゥー語訳はいずれもこの出版社より刊行されていた。他にも、児童文学の中で重要と位置づけられている作家の作品も多く見受けられた。ネット購入可能。
(<http://www.sangemeel.com/SMPHome.aspx?SelectionCriteria=Home&Page=1>)
- ・ **Children Publications**…児童書専門の出版社。
- ・ **Maqbool Academy**…物語の他、伝記類が豊富にそろっている。
- ・ **National Book Foundation**…パキスタン政府の資金で運営される財団で、廉価な児童書を手掛けているほか、地方言語からウルドゥー語への翻訳も行っている。
- ・ **Lok Virsa**…パキスタン国立民俗伝統遺産研究所。その名の通り、各地の民話や民謡などを採集して出版している。各言語からウルドゥー語への翻訳も行っているため、パキスタン各地の民話や民謡をウルドゥー語で読むことが出来る。

6. ブックリスト作業経過について

本稿1の「調査の所見」で挙げた4点を考慮しつつ、ブックリストの作成を行いました。文学作品に関しては、ウルドゥー語児童文学の研究書であるマフムードウッラフマーン著『ウルドゥーにおける児童文学』⁴及び、ハリヤーナー州政府児童文学賞受賞者であるフシユハール・ザイディーの著した『ウルドゥーにおける児童文学』⁵を参考に重要な作家・作品を絞り込み、Worldcat(<http://www.worldcat.org/>)などを使って詳細な書誌データを確認しました。ウルドゥー語児童文学の研究書のみでは近年のデータまでカバーすることが困難であったため、インターネットの児童文学賞の受賞状況や出版状況、私有の絵本、ウルドゥー語の教科書に掲載されている作家や作品、ナショナル・ブック・トラスト(インド)の国立児童文学センターの蔵書(<http://59.177.81.15:8000/cgi-bin/gw/chameleon/>)や、児童文学フェスティバル事務局(パキスタン)の蔵書リスト(http://www.childrensliteraturefestival.com/links_resources.php)などを参考に、選書を行いました。

⁴ Muḥammadurrahmān. 1970. *Urdū men baccon kā adab*, Karachi: National Publishing House

⁵ Khvushhāl Zaidī. 1989. *Urdū men baccon kā adab*, New Delhi: Khvushhāl Zaidī.